

研究課題	外国人児童の日本語指導と多文化共生を志向した教育実践の可能性を探る
副題	～GIGA 端末を活用した日本語指導のあり方を中心として～
キーワード	外国人児童生徒 日本語指導 デジタル教科書 GIGA 端末
学校/団体名	公立横浜市立南吉田小学校
所在地	〒232-0022 神奈川県横浜市南区高根町 2-14
ホームページ	<a href="https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/minamiyoshida/">https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/minamiyoshida/</a>

## 1. 研究の背景

令和 4 年度学校基本調査によれば全国の小中高・特別支援学校等に在籍する外国人児童生徒は 127,190 人で 10 年前の 1.65 倍に増加している。外国人児童生徒数の増加に伴い日本語指導が必要な児童生徒数も増加しており、令和 3 年度に公立小中高・特別支援学校で指導が必要とされた人数は 58,307 人（日本国籍含む）で前回調査（H30）より 7,000 人以上増えている。

令和 3 年 1 月の中央教育審議会答申「令和の日本型教育の構築を目指して」には、増加する外国人児童生徒等への教育の在り方について、外国人の子供たちが共生社会の一員として今後の日本を形成する存在であることを前提に関連施策の制度設計を行うことが必要であるとした上で、日本語指導については「外国人児童生徒等の母語についても多様化が進むなか日本語の指導や教科補習等の特別な指導を受けている児童生徒の割合は 8 割前後にとどまっており、外国人児童生徒等に対しては、学校生活に必要な日本語の学習とともに、日本語と教科を統合した学習を行い、教科学習に自律的に参加できる力を養うなど、組織的かつ体系的な指導が必要である。」と詳述しており、将来日本社会で活躍するためにも、初期日本語に加えて教科と統合した日本語指導を学校で充実させるよう提言している。

令和 2 年 3 月に出された「外国人児童生徒等における教科用図書の使用上の困難の軽減に関する検討会議」報告によれば、日本語指導が必要な児童生徒（日本語で日常会話ができない児童生徒、又は日常会話はできても、学年相当の学習言語が不足し、学習活動への参加に支障が生じている児童生徒）の数は増加しており、教科書使用上の困難を抱えているケースが少なくない。困難は軽度なものばかりではなく、支援の重要性は高い。ICT を活用した音声教材やデジタル教科書は、読み上げやフリガナ機能があることから、外国人児童生徒等への指導・支援に活用することで、学びの質の向上につなげることができるとされている。

## 2. 研究の目的

本校は全校児童 636 人のうち 56%が外国籍等児童（外国籍および日本国籍を有するが両親のどちらかが外国籍である児童など）であり、つながる国と地域は 22 に及ぶ。日常会話はできても、学年相当の学習言語が不足している児童も多く、約 150 人が日本語指導を受けている。日本生まれ日本育ちの外国籍等児童は、日常会話には困らないが、家庭内言語が母語とい

うケースが多く、学習言語の習得が大きな課題となっている。加えて今年度はコロナ禍で停滞していた国を超えての移動が活発化し海外からの編入児童が増加している。

横浜市では2021年にGIGA端末（小学校はiPad）が全校に配付され活用が進んでいる。本校では、一般級だけでなく、外国籍等児童が日本語を学ぶ国際教室でもGIGA端末を活用して日本語指導を進めている。

そこで、本研究では、国の方針や検討会議の報告を踏まえ、日本語指導にGIGA端末やデジタル教材を活用することの成果と課題を検証し、外国人児童の学びの質を向上させることを目的とする。このことで増加し続ける日本語指導の必要な児童生徒の個別最適な学びの一助となれば幸いである。

### 3. 研究の経過

時期	取り組み内容	評価のための記録
2022年 4月 ～6月	・GIGA端末を使った日本語指導開始 ・国際教室児童用デジタル教科書購入 ・国際教室用モニター購入	・研究の全体提案資料 ・職員ICT活用アンケート①
7月	・第1回校内授業研究会 国語科授業におけるGIGA端末の活用 デジタル教科書活用実証事業委員による指導	・学習指導案
8月	・校内デジタル教科書活用研修 光村図書の担当者による研修 ・ICT活用研修「デジタル教科書の活用」	・研修資料
9月	・第2回校内授業研究会（実践1） GIGA端末活用・デジタル教科書活用	・指導案 児童アンケート
11月	・第3回校内授業研究会（実践2）	・指導案 児童アンケート
12月	・市国際教室研究会で授業公開（国際教室） 全市に向けた報告	・職員ICT活用アンケート② ・学校評価アンケート実施
1月	・第4回校内授業研究会	・指導案 児童アンケート
2月 ～3月	・研究のまとめ ・市研究会デジタル教科書研修（光村図書担当者） ・次年度計画作成	・成果報告

2021年6月にGIGA端末が配付されて以降、職員研修を重ね急ピッチで活用を進め、8月の全市臨時休校、9月の分散登校ではオンライン授業を実施した。2022年度は試行段階から「効果的な活用」に軸足を移して様々な活用法を模索した。

### 4. 代表的な実践

#### （1）在籍学級の日本語と教科との統合を図る実践事例（1年生国語科 実践①）

①単元名「2年生に「おもしろい」と言ってもらえるような『生き物かくれんぼ図鑑』を作ろう」

主教材名「うみのかくれんぼ」(光村図書) 副教材「みいつけた！」(ポプラ社)等

②児童(在籍25人 うち外国籍等児童13人 国際教室指導児童6人)

③学習計画(9時間扱い)

本実践は2年生に「すごい」「おもしろい」と言ってもらえるような『生き物かくれんぼ図鑑』を作ろうということでスタートした。学習計画を立て、教科書教材に沿って、はまぐり、たこなどの海の生き物が体の特徴を生かして巧みに身を隠す方法を読み取り、ワークシートにまとめていった。その後教科書教材での学習を生かして、お気に入りの生き物で「かくれんぼ図鑑」をつくるという順番に学習を進めた。

④教科書教材の読み取り GIGA 端末による動画視聴(3~5時)

3~5時で児童は教科書のQRコードをGIGA端末で読み取り繰り返し動画を視聴することで海の生き物が巧みに隠れる様子を理解していった。単元終了後に取ったロイロノートスクール(以下ロイロ)のアンケートではほとんどの児童が「動画を見て隠れる様子がわかった」と回答しており、日本語を母語としない児童も動画による説明で理解が深まったと考えられる。



多くの児童がとてもよくわかったと回答

⑤お気に入りの「生き物かくれんぼ図鑑」を作る(6~8時)

まず図書室や教室で生き物の本に親しみ、好きな生き物を選び、本のページをGIGA端末に写真で取り込んだ。次に保存した本のページの中から、自分が知りたい情報(「生き物・場所」「体の特徴」「隠れ方」)を読み取り、画面上にマーキングし情報を整理する。その情報をもとに、個人のワークシートに、書き込んでいくという学習を順次行った。

マーキングはロイロの基本機能を利用し、1年生児童でも無理なく進められるようにした。本実践では、自分の力で解決する時間を「もくもくタイム」とし、友達と一緒に解決する時間を「にこにこタイム」とした。「もくもくタイム」ではテキストを一生懸命に読み込み、必要な情報にマーキングしようとする姿が見られた。「にこにこタイム」では自分の好きな生き物の特徴や隠れ方を互いに紹介し合い、読み取れなかった部分を教えてもらう姿が見られた。情報の読み取りをマーキングすることで思考が可視化され、日本語の理解が十分でない児童が友達の助けを借りて理解していくことができた。



アンケート結果ではほとんどの児童が「にこにこタイム」で友達に聞いたり教えたりできたと

回答していることから、GIGA 端末を真ん中においてのやり取りは協働的な学びを促進していると考えられる。

⑥2年生に「生き物かくれんぼ図鑑」を紹介する（9時）

学習の最後に完成した図鑑を2年生に紹介した。ここでもGIGA 端末で本のページを示しながら好きな生き物がどのように隠れるかを紹介したところ、2年生からは「おもしろかった」「驚いた」「よくわかった」など肯定的な反応が得られた。アンケートの結果でもほぼ全員が「2年生に紹介出来て嬉しかった」と回答しており満足度が高かった。GIGA 端末を媒介としながらクラスの友達やいつも交流している2年生のペアの児童と学習したことで、自己有用感や学習意欲が高まった。



（2）国際教室のデジタル教科書を活用した日本語教科統合授業（4年生国語科 実践②）

①単元名・主教材名「ウナギのなぞを追って」（光村図書）

②児童（在籍34人 うち外国籍等児童16人 国際教室児童6人）

本校では初期指導を終えた児童を対象に、国際教室で取り出し指導を行っている。個人差はあるものの、来日後半年～1年で日常会話はできるようになるが、教科書教材の理解には時間がかかる。そこで在籍学級の国語の時間に日本語と教科（国語）の統合授業を行っている。

③学習計画（8時間扱い）

はじめに説明文の全体をとらえ、次に自分が興味をもったことを中心に文章を要約する。まとめとして、筆者の調査に対する感想を入れて「ウナギのなぞを追って」の紹介文を書き、最後に友だちと交流するという計画で学習を進めた。

④紙とデジタル教材を併用した指導

導入部では指導者用デジタル教科書からウナギクイズを出題し関心を高め、説明文全体をとらえる段階では、教師が作成したリライト教材（プリント）を中心に要旨を読み取るとともに、指導者用デジタル教科書の「まなぶ」機能から動画を見たり、挿絵に書き込みをしたりして説明文全体の理解を深めることができた。また黒板に掲示する模造紙には写真や地図を貼ることで内容を視覚的にとらえやすくした。自分が興味をもったことを中心に要約する段階では、学習者用デジタル教科書を活用し、マーカーを引いたり書き込みをしたりして考えをまとめ、最後に自信をもって紙に要約を書き込むことができた。

紙とデジタル教科書のハイブリッド型の指導を行ったことで子どもたちは最後まで知的好奇心を保ち、粘り強く学習に参加することができた。



## 5. 研究の成果

### (1) 日本語指導の質向上

実践事例で示した通り、デジタル教科書やGIGA 端末を活用することで一人一人の教材文の理解が進み、協働的な学習が促進され、学習言語の習得に困難を抱える外国籍等児童の学習が深まったと考えられる。

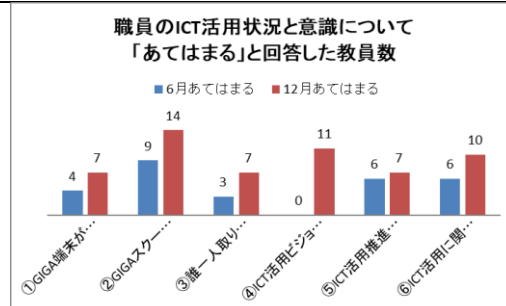
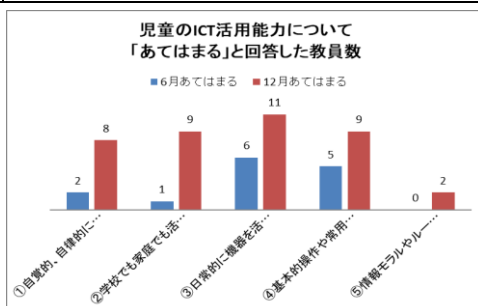
本校の外国籍等児童の多くは、生活言語には困らないが、学習言語に困難を抱えている。そのため学習に自信が持てず、積極的に挙手したり発言したりできないでいる。本研究を通して、紙の教材と並行してデジタル教科書やGIGA 端末を活用することで、学習に興味を持って積極的に参加し、日本語で生き生きと表現する姿が見られたことは何よりである。

研究を推進するにあたっては、校内重点研究（国語科）の一環と位置付け、授業研究を通して研究課題に迫れるようにした。従来の重点研究では児童および教職員へのアンケート調査をあまり実施してこなかったが、本研究の視点を入れたことで、データ収集が進み、成果や課題が可視化できたことは波及効果である。

### (2) ICT 活用能力の向上

6月と12月に教職員向けにICT活用アンケートを実施したところ、次のような項目で「あてはまる」とする回答が増えている。研究を行ったことで、学校全体としてICT活用が目に見えて進んだことは大きな成果といえる。

	児童のICT活用能力について		職員のICT活用状況や意識について
①	自覚的、自立的に機器を活用できる	①	GIGA 端末が配布された背景を理解している
②	学校でも家庭でも活用できる	②	GIGA スクールの意義を理解し前向きに活用している
③	日常的に機器を活用できる	③	誰一人取り残されないよう、GIGA 端末を活用している
④	基本的操作や常用アプリへのログインができる	④	ICT活用ビジョンが示され学校全体で共有されている
⑤	情報モラルやルールを守って利用できる	⑤	ICT活用推進に貢献しようとする意欲が学校全体にある
		⑥	ICT活用に関して教職員間でよく話題にされている



## 6. 今後の課題・展望

デジタル教科書活用については、8月に光村図書の担当者を招いての研修会を実施したところ国語の指導者用デジタル教科書が各教室で活用されるようになった。12月の教職員向けICT活用アンケートでは、国際教室担当教員は100%国語の指導者用デジタル教科書を活用しており、本研究をきっかけとして活用が進んだと考えられる。

一方で学習者用デジタル教科書の活用は思うように進まなかった。その原因としては個人のGIGA端末にインストールすることができず、共有端末を使用したことで、個人の履歴が残せず結果として使い勝手が悪かったことが考えられる。また指導者用デジタル教科書をモニターで共有し協働的に学習する方が安心して学習を進められることも分かった。今後の課題として検討していきたい。

昨年度からGIGA端末の活用が進み、児童のICT活用能力は高まったが、一方で「ICTを駆使するあまり、学習の中で人と関わっていく機会が減っているのではないか」という懸念も生まれている。そこで、今年度から校内重点研究の授業づくりの視点として「人とのつながり」を入れ込み、バランスの取れた学習を模索している。

## 7. おわりに

今回の研究で、外国籍等児童の日本語指導にデジタル教科書やGIGA端末を用いることで、教科書の内容理解が進み、使い方によっては協働的な学びが促されることも分かってきた。

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるという観点からも手応えを感じることができた。今後も「誰一人取り残さない」という理念をもち、外国籍等児童の日本語指導を充実させていきたい。

## 8. 参考文献等

- ・令和4年度学校基本調査 2023/1/2 閲覧  
<https://www.e-stat.go.jp/stat-search/files?page=1&toukei=00400001&tstat=000001011528>
- ・日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（令和3年度）2023/1/2 閲覧  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/houdou/31/09/1421569\\_00004.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/09/1421569_00004.htm)
- ・「令和の日本型学校教育」の構築を目指して～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）（中教審第228号）2023/1/2 閲覧  
[https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985\\_00002.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/079/sonota/1412985_00002.htm)
- ・外国人児童生徒等における教科用図書の使用上の困難の軽減に関する検討会議報告等  
[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/kyoukasho/1419671\\_00001.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/kyoukasho/1419671_00001.htm) 2023/1/2 閲覧
- ・光村図書学習者用デジタル教科書活用事例リーフレット（2022年）「日本語学習支援におけるデジタル教科書の活用について」 光村図書出版
- ・西川朋美（2022年）「外国につながる子どもの日本語教育」 くろしお出版
- ・齋藤ひろみ（2022年）「外国人の子どもへの学習支援」 金子書房
- ・山脇啓造 服部信雄（2019年）「新 多文化共生の学校づくり」 明石書店